

新編水滸畫傳

三編

五

875
25
~21



遠21
875
卷 25

新編水滸画 傳卷之貳拾五

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十年
十月十日
講



○武松闘て西门慶と殺す

武松の妻の雑玄と具して多々酒肴を買個へて武大所が家に居り。け時彼妻の武松が松竹准ざりて多々酒肴を買個へて武大所が家に居り。及よりなり武松かの妻小対して云明日は是亡兄の初七日の事あり。法の近隣と清て酒と勃めり思ふ。彼妻は云我がて近隣と清て酒と勃めり思ふ。武松がいは隣家悲く喪で送て。化人場辺まで出るとされ。武松がいは隣家悲く喪で送て。それと利兵衛小巻花燈燭と供て云る。嫂を宜く容の事と待てられ。款待を我の自法隣家と邀へ来ると先隔壁の玉簪が家に仕て。

彼と迎へられた。王婆が云く、此の所は必ず心を費しあふてゐる。武松が云く、亡兄別して
汝と勞し、さうして多かれが我を是と感ず、あく来りて、遂に王婆と邀へ、家に
回り乃彼妻に對して、たゞ、或は時王婆も又武松を所へ准へるらん、と笑へ、
自ら心と安んじて云る、はなも右も、此の命に従ふべし。武松又右隣の姚文卿が
家へ赴て邀へられ、姚文卿云く、今日の少く、家事忙し、さる所へ行く、免れ、或は
松が、いそぐ。一盃の酒と、勅めん、強て邀へ、かゝる及く、吾れ、不他、され、少く、のる
駕と移り、又姚文卿、拜する、と、能く、遂に來て、王婆、次、小坐し、り。武松又、
對面の趙仲銘、胡正卿と邀へて、同く、府、小、即し、む。既して、武松又、王婆、
不同て、云る、右隣の第三間の家は、附る、ぞや。王婆云く、彼は、張公と、呼ん
ん。武松云く、我、彼、人とも、迎へ、來、む、と、乃ち、張公が、家へ、呼、り、れ、張公、武松
小まゝ、云て、云る、ハ、此、何の、事、あり、と、未だ、訪ひ、ぬ、か、ぞ。武松云く、明日、亡兄、斷、七

日なる、一盃の酒と、進、り、申、え、に、來、條、と、ある、や、張公云く、我、未だ、此、所、に、一
盃の、吊、同、も、申、さ、る、に、い、ん、で、致、し、法、に、意、し、申、さ、ん、や。武松云く、張公、何、由、名
張公の、云、と、云、の、名、取、く、い、速、に、來、り、或、と、遂、に、邀、て、家、に、同、り、姚文卿
次に、坐、せ、む、法、の、鄰、家、坐、已、に、定、り、れ、武松、張公、盃、と、執、て、洗、近、隣
と、勅、て、云、る、今、日、列、位、と、邀、へ、か、ぬ、と、い、ども、何、の、款、待、も、な、ら、ず、只、強、て
酒、と、酌、て、あ、り、と、と、再、三、勅、め、て、酒、已、に、數、盃、巡、り、れ、胡正卿、先、列、れ、と
告、て、云、る、い、ま、今、日、ハ、一、の、事、あり、と、忙、し、さ、る、席、と、辞、し、か、と、已、に、云、ん、と
せ、れ、武松、これ、と、扯、住、く、云、汝、既、に、來、り、ぬ、上、の、從、ひ、忙、ハ、一、さ、と、も、尚、堪、
く、座、に、列、り、或、と、自、ら、酒、と、酌、で、勅、め、れ、胡正卿、暗、に、忠、道、武松、必、ず
好、意、と、以、て、我、等、と、邀、へ、つ、らん、に、何、由、又、か、く、の、ご、と、く、人、の、忙、ハ、一、さ、と、も、顧
み、や、と、再、三、心中、に、恠、さ、る、り。既、して、盃、六、七、遍、巡、り、ぬ、如、に、武松、列、法、隣

家に對して曰且益と收り申すとも於て友人の雜玄に命しき。益益と
 收りしりりれは時法の隣家已に産と立んたりるに武松意にこれと標り
 住りて玄法の隣家時お相へん我一言と申すをとりあり。あつては因小若
 文字と出人なりや。姚文卿云乃ちは胡公卿若文字と書りしる。武松
 云胡公をいよく文字と書りしるは我が一教り度ありと未だ云はれず
 ぞと双の袖と捲り起忽ち衣の下より一挺の刀と抜きしり乃ち支眼と
 睜尻し云るは素今寛と教んと欲は法の隣家我為に証人となりぬ必
 ず該さぬふし勿とて忙し跳鬼て彼河嫂と捉へて壓へられは王婆これ
 見て大に驚れ慄るぬに武松又これと瞧んぞ。王婆走るとしんれと罵りしふ。
 ゆるく近隣おのく面とん合せそく色と失ひ恐れたり。武松がいち。諸
 君鄰これと怪しむとさるん我これ鄙さ村まるとしんれと罵りしふ。

寛のれが寛と頼ト。仇あれむ仇を報は形く列位回りたまふとま
 くれ美一人ふとも回んとするへあふ我必ぞこれと怨むべし流人は是と嘆て
 揮ひ慄くたりに我松又王婆と罵て玄城老婆汝我云とよく嘆我兄
 の性命於て汝が身の小殺されぬ我少刻洋に回べしと又河嫂を罵て玄汝
 淫婦好も教て我兄の命と害せしる汝匡く涙の次第と一く白状せよ。
 汝を僥えん彼女が玄教く何ぞ自ら得りや我がまは心痛の痛は死
 死しされし我が千も死にわはぬ教く是と際し武松益怒り於て彼女
 と冥前に踢倒し刑右の御と辱て是と踏住め又刀とひて彼王婆を指
 して大に罵て云るは汝城老婆速に実情とやせ若くは録せよとあはれ
 け刀と飛せは女が首と刎べしと王婆大に驚り我実情とやべに形くは我
 怒りと休め我松意に彼雜玄小紙筆と出させ胡公卿お對して云るは。且下



隣是と見て大小恐れ危皆面色と失ひたり武松又法近隣小對して云々列
 位再び樓上にて坐りて坐し我尚一つの事と完つて少刻回良法隣家これと
 互に目と合せ遂小皆く樓上にて坐りて武松自ら王婆と引いて樓に坐り乃二人
 の雜々小命しるは汝友人必も樓門とせし人とは出さしむれ我少停身長しと
 外より樓門と愛し垂ちる門慶茶舗小むて老主官小向ひ問て云々大友人は
 家小在やと官養を云主人は先小化出致されぬ武松が云我汝に一官人子く我小後て
 来れ彼主官武松が勢ひの猛と見て敢て并ば遂に武松に引れ僻靜する地小出り
 云武松詞と荒らげて云々汝死せんと欲するや又活んと欲するや彼主官大に
 驚き来寄て却て犯しとてとるは何由かかくのどきと云ぬや武
 松が云汝の活んと欲するや西門慶が仍向と知せよ死せんと欲せば
 西門慶仍向と云とるは彼主官が云我主人は一人の友小しれ獅子橋

の下の酒樓に在て酒と飲で居らるる武松が利事あるは自ら死して行ぬ
 武松是と噴て大小怪び飛き跳り彼主官は先系とんとて龍妻れ
 慄さけり武松已に獅子橋の下の酒店小きて小厮小向るる西門慶へ誰と
 酒と酌て北面に在や小厮答て云一人の友と酒興と催し樓上に居る武松是
 とつて垂小樓上に坐り阿嫂が音と西門慶が面の上に投りし西門慶肝と
 消急に逃んとて窓の内より下と重なるにその下の街を跳下ると法
 とるに終に終はしる如に武松雷の如く跳り跳躑けし西門慶が友と
 とるに忽ち眼と眩りして倒れり西門慶今ハ脱れとて思ひん忙し
 右の足と飛せて踢りし武松が右の足小伸つて武松が持る刀と樓
 の下街の上に踢落し武松刀と踢落され大小怒り彼虎と殺し
 勢いと揮て電の如く跳躑り列右の足とめて西門慶が肩脾と揪へ龍の

おていそあはせと振り乃窓の内より街の上小亭んで力に依せし投落しければ。の
 つ慶吉側小次で遠の下に落しなり。武松は東來武蔵の達人を身と眺し
 ひるの術は長しる由志。又彼阿嫂が首と捨ひたり怪しく身と躍せて街の上へ
 跳り彼陽落るる力と再び死に上西門慶が頭の上小亭罵りなり。汝
 我兄と毒害しる天罰まされ今悲ひあるものこそ。終に死と別落し。
 彼女が首と日く。改後と結び合せたの手に是と提恰も奔雷のどく。呪
 て再び紫石街の兄が影小回り。死し首と頭骨供て云なる。我兄は
 魂ふく天界小せし。我今日奸夫と淫婦と殺して兄の仇と報しめ
 と奠了別。又雑玄小作せ法の隣家と樓の下に邀はしめられ隣家と皆
 王婆と拖て冥府小入りぬ。此時武松友人のそと執て法の隣家に対して
 云なる。我尚一句の云あり。武松の腕中へ振りやえ小敢てせぬんや。法隣家

いち。於此。一。死。り。由。ん。と。の。う。ハ。速。に。示。し。又。未。く。敢。て。命。に。従。ふ。と。

○母夜叉孟州道中人肉と賣

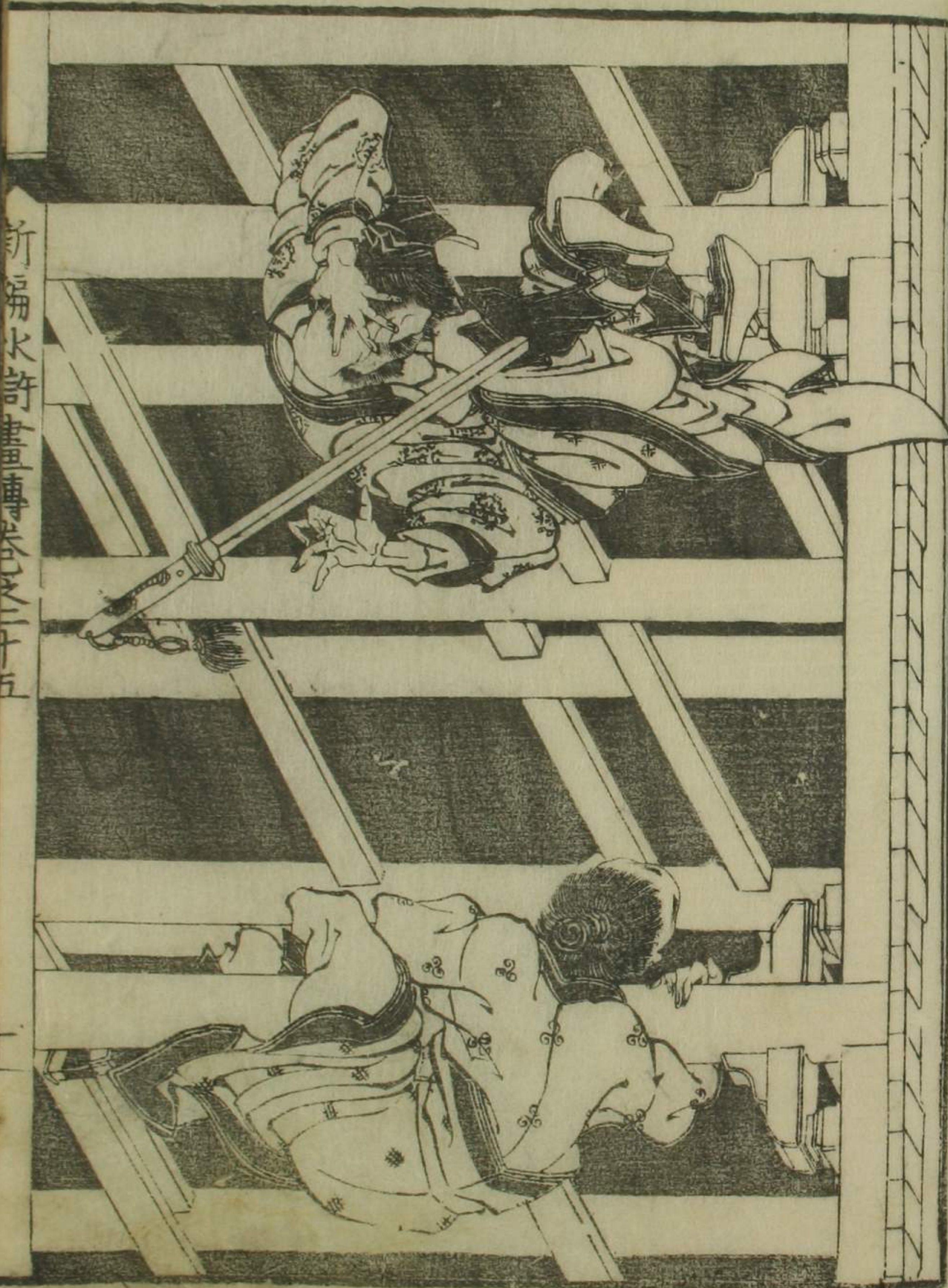
此時武松法の隣家小對して。我今亡兄の爲小仇と報ひ。寛と
 君はし。と。む。理。の。面。不。な。れ。擬。ひ。死。す。も。然。や。只。未。法。言。隣。と。談。し
 かせし。と。致。く。は。是。と。怒。し。又。我。已。に。罪。と。犯。し。ぬ。上。存。亡。死。生。係。ん。ぞ
 せ。し。不。め。り。今。日。且。家。内。の。乃。々。と。交。賣。友。司。出。る。時。の。使。用。に。依。へ。ん。と
 飲。に。法。言。隣。我。が。爲。に。これ。と。交。賣。して。あ。ら。う。ひ。又。我。友。司。小。出。る。ば。あ。ら。く
 言。隣。の。見。お。ひ。し。不。く。我。小。習。て。海。へ。入。り。せ。し。勞。と。避。ぬ。よ。と。う。れ。法。隣。家
 是。と。笑。て。皆。そ。ま。と。於。兼。し。於。て。家。内。の。乃。々。と。交。賣。遂。に。是。と。交。賣。す。ば。
 武松乃ら二ツのそと。小提げ。法隣家と。そ。の。縣。理。と。尋。で。馳。來。り。ぬ。け。

時街に出て見物する志敷とあつて。知縣は事とめて大小路を忙しく
 廳上小出られ。武松は隣家とちりて王婆を引いて廳下小出り。乃ち彼二の
 そと堀の下小並武松は左の方に跪き。王婆は中央に引居隣家の
 ところく右の方に跪きぬ。武松は彼胡正卿が字する口洞とれ出。一
 洋に松へられ。知縣先王婆に問ひ。王婆が白状あり。口洞は
 隣家も又きんびし。器具は附る。知縣又彼何九叔と野舟とと呼出
 して明白に口洞とれ。下友許多あふ。小分は彼妻の屍首を度
 屍首とと查點させ。且武松と王婆とに頸枷と枷て牢中に登し。寺僧の志
 は。於て縣裏の役所に入。ちり。知縣相公暗小おひる。武松は系來義氣
 此豪傑之流や。け度我が為に。東京に上り。事と完へて。回り。功勞も大ひ。我
 買く。彼と救ふ。と。別法役人と商議して。云ら。我武松と。るに義氣

鉄石の英雄なり。先死罪と免。尚縣の本府。東平府小送て。知府
 相公の交りと求んと。思ひ。法の役人を推し。敢て知縣の志と持
 べ。一月を議小伏し。られ。知縣即日一通の文書と傳へ。二人の下友と。添
 武松王婆と。びに何九叔野舟。法近隣。そく皆。東平府小並さんと
 議定し。られ。縣中縣介の人民。武松と勇と。憐し。思ひ。金銀と
 て。武松小銭。り。武松は旅裝束の間と。免。れ。房間に。取て。用。は
 於て。十。は。あ。の。恨。と。野舟が。親小送り。め。於て。完く。調。し。あ。人。の。下
 友。武松。を。びに。何九叔。ホと。借。役。し。其。日。遂に。東平府。小。送。り。り。び
 時。府。尹。陳。文。昭。已に。廳。上。に。出。り。武。松。等。を。廳。前。に。呼。入。且。湯。谷。縣。の
 文。書。と。披。き。讀。法。の。口。洞。と。一。覽。し。於。明。白。に。來。歴。と。知。し。武。松。が
 罪。と。控。し。と。定。め。先。入。牢。を。王。婆。が。罪。ハ。き。と。て。頸。枷。と。り。て。死。罪。人。の

牢中に押入り何九叔鄆哥をひに法の隣家をハ事以湯谷縣に回
 一られ西門慶が眷属を東京よりの改め待望く消息と窺て居り
 何九叔陳府尹武松を義めると感ト是と憐むるに人を弛く武松と同一め
 なる牢ち以下の若き皆く武松と懇に介抱し時く酒食を以て款待ぬ
 陳府尹ひとふ一函の密書と東京の刑部官ホ方へ送つて武松が死罪
 と赦したり。親せりられ刑部官ホ東京陳府尹と親しむる子速省
 院友小若武松衆と流罪に儀宣し言日文書と修へて東平府小下
 され。陳府尹文書とて悦び急に湯谷縣へ人と馳て西門慶が眷属を
 何九叔鄆哥及び法近隣ホと再び東平府に呼寄。刑部官ホ於て東京
 より下りし文書と法人漢字しめ武松と怪く十枚策て面に刺黥し。七
 行半の頸枷とかけ孟州小流罪せしめ。法証正人きび小西門慶が眷属ホハ

事なく縣に回らしめ。案六街中せり後し軒罪小ひり隣家を家
 材賣賣せし浪子と武松小下と遂に各別れられ。武松二人の下友とをに
 東平府と出て孟州へ越えり。二人の下友東京武松が豪傑とて恐るゆ
 れ。乃中懇懇に事へおしめ哀憐のとき武松も又懇懇と感ト。以村
 彼里に於て多く酒肉と与へられ友人の下友孫悦と共小心と傾けぬ。武松三
 月の初に仇と殺し。二月月終り牢中にあり。今孟州路へ出れば六月の最後も
 冬暑務がたまり毎日朔凍小業とて路を急ぎ約莫二十餘日弛りぬ。一
 の大強にまで炭の上に坐りし。六時已に巳の刻之武松友人の下友小對
 て云る。且暫くは石に休息し。炭を下り酒を飲め。酒肉と酒(食)を
 友人の下友然りと申す。暫く炭上に歇て遂に禁不り。未。そ辺を居るに
 遙の坂の下小僅十餘石の草屋。尽く漢小傍てあり。柳の樹の上に一つの酒



新編水滸畫傳卷之二十五



新編水滸畫傳卷之二十五

幕掛し。武松えと見て云々。彼所に酒帘掛る。必定酒店ありん
子く往く河と汲べし。我小眼て来れと忙し。麓と下つて来り。多如に。是の
辺に一人の樵夫柴を荷よてさし。武松毛小官て云。びより孟州への尚幾く
の強ありや。樵夫善て僅小一里の強あり。武松又同て云。此れ何地。何と云。
や。樵夫が云。炭の下小見え。大樹林。別ち毛十字坡とて有名の地也。武
松は時友人の下友せに。十字坡の辺小むつて樹林を見るに。第一の大樹凡右
六人圍もわし。武松毛と希五の大本と貴し。已に酒店の荷よて。此
と多に酒店の内に一人の女坐し。其の上より鉄環と挿し。髻の辺より花
と挿し。ぬ。武女已に武松ホ三人の赤にあり。ゆると見て。急に出迎て云。多
官智く憩と之。我店より美酒菜肴肉包も賈へど。辱不假せて
會し。武松毛と時て友人の下友と他。店の肉小入られ。被女遂に三人

の志と延て。後堂に坐せり。めり。押形女の来られ。菜園子張青が妻母夜叉
孫二娘と。蒸汗菜の酒と賈。旅人と辞し。殺し。行李衣箱もと奪ひ
殺せり。肉と切て。肉包小製。是も商物と多。希五の婦人。とさうに。知れ
ざりしと。

○武松十字坡にて張青小遇ふ

流人武松酒店の後堂小入て坐し。られ。下友が云。此れ何れ人の。さうも
ゆ。の。頭柳と除て。休息せ。さゆんとして。遂に柳と折し。られ。武松
大小脱ひ。乃ち窓小倚て。疲と慰めて居る。如に被女。洗面に笑と。含んで云。さうへ
客官。幾何の酒と沽。や。武松が云。幾と。痛せ。只顧小。昏。肉。わ。わ
是。又。三。又。斤。と。切。て。出。給。へ。被。女。又。同。て。云。肉。包。小。用。ひ。あ。り。ん。や。武。松。が。云。是。も
月。ド。二。三。十。携。へ。来。れ。被。女。呵。々。と。お。笑。て。肉。小。入。給。て。一。桶。の。酒。と。一。盤。の。肉。

とて携へ出て玄密官自ら酒を勧め酒已小又七碗篩りて又肉包と持こ
舟上に出る如に武松先是執て二つに寢乃ち其肉を分けて云るは肉包の人
肉を用ひぬや。彼女亦嘆て玄密官戯れと云申すも今世小何ぞ人肉
の肉包わらんや。我家の肉包ハ先程牛肉を以て製し之を武松云我多年
旅中に立て人の云と嘆ぬるに大樹林十字坡の客ハも旅人と害し
肉を用ひて肉包と偽ると汝必我と誑く事なれ彼女云玄密官何ぞやの
と云申すや我がは處へ右より清平の地よりてきて人と害し事なれ
武松がいそ我は肉包の内を見れば人の頭髪あり是に由りて我は疑ふ且汝が
夫ハ何故家に在るや。彼女云我夫ハ高貴の爲頃日外へ出でて未だ家へ
回らざる武松云已にかくれんは汝独寐を抱て嘆寂寞らん彼女笑を合
んが暗小老ひるは這配軍自ら死を以てと云るべしと却て我を戯るは

是乃ち夏の虫火を撲滅と惹て自ら身を焼小似る我後に汝を害はべき
の事と乃ち亦笑て云るハ客を戯れと云ふ事とされ且此ハ周旁て來る
れば後園の樹下小坐して乘涼白はんや。晩る乃ち我家に歌を武松
心中に悲ひるはは女必定心を夾て我を罵る疑ひなき我却て先彼を
試んと再び彼女小問て云るは汝が家のは酒ハ多き酒少して用ひばは列に又
酒のハ是と出さんや。彼女がいそ我家小尚一棹よりの美酒あれ唯少し渾む
由急ありは是と出さんや。武松云吾酒こそゆつく味もこのハ汝速にこれ
を出せば女是と笑て暗に懐び遂に一瓶の酒を拿出られ武松これを見て云
るはは酒柄めて笑るる凡酒酒熱くして飲時はいよく味好汝是と湯を
て来んや彼女云玄密官の言すくは酒を熱くして飲時ハ味もよく是之を
刻温て来んとして自ら心中に思ひるはは酒の内ハ蒸汗茶を入るるが

熱く湯を時毒茶ゆりくそ。險疾し。彼自ら熱さと好む。死を急ぐ。乃。我遂に是と殺ま。さ。そのせと。飲。酒と盃。拿來。刺。これ。三。碗に。篩。我。松。三人。を。勃。めて。云。る。の。密。官。法。不。是。を。釣。で。味。ひ。由。人。の。下。友。是。を。咬。て。大。に。挽。び。煮。不。盃。を。執。て。飲。乾。ら。れ。武。松。も。執。上。て。彼。女。小。對。し。云。る。の。我。の。系。來。着。る。酒。を。飲。し。能。は。れ。刺。に。又。着。ぬ。我。小。女。用。ひ。一。わ。ん。や。彼。女。が。云。尚。牛。肉。を。与。へ。り。さ。ん。と。て。飲。て。能。と。云。て。出。れ。ぬ。武。松。忙。し。く。盃。の。酒。を。把。り。傍。に。あ。る。器。の。内。小。漆。し。入。故。老。舌。赤。し。て。云。る。は。は。酒。味。ひ。狼。ま。突。入。の。最。能。人。を。碎。し。む。と。喝。り。ら。れ。彼。女。は。怒。り。て。咬。て。急。に。走。入。刺。し。拍。て。汝。も。倒。れ。よ。と。未。だ。云。も。う。ら。ら。る。に。彼。女。人。の。下。友。勿。ち。渾。身。麻。れ。と。席。上。小。倒。れ。ら。れ。武。松。も。入。詐。て。眼。を。冥。鏡。に。盃。を。棄。て。お。倒。れ。ぬ。彼。女。呵。々。と。お。笑。し。て。云。汝。ら。縦。い。鉄。石。の。重。う。も。い。ん。ど。よ。我。酒。の。毒。に。中。

ら。ざ。ん。や。と。そ。乃。ち。小。二。小。三。と。云。二。人。の。後。せ。と。呼。出。し。彼。女。人。の。下。友。を。壁。の。後。に。扛。入。り。め。彼。女。自。ら。三。人。の。者。が。包袱。蘊。と。採。て。只。願。指。り。を。云。る。は。は。肉。を。平。く。金。銀。多。く。取。り。見。え。り。今日。の。得。來。を。大。吉。利。市。と。我。悦。し。て。遂。に。包袱。蘊。を。收。め。る。如。に。人。の。後。生。毒。び。出。て。武。松。を。扛。起。さ。んと。し。ら。れ。也。恰。も。子。方。竹。の。重。さ。を。く。く。り。て。勃。せ。と。能。ざ。り。し。ら。彼。女。是。と。見。て。大。小。焦。燥。汝。女。人。何。ぞ。彼。一。人。を。扛。上。る。と。能。は。ら。ぬ。我。是。を。拖。上。て。見。せ。んと。遂。に。武。松。帝。不。お。て。控。ぐ。と。扛。起。ま。ん。と。せ。し。如。に。武。松。急。不。双。子。と。伸。し。て。彼。女。を。胸。の。上。に。抱。上。り。彼。女。腰。を。穿。て。彼。女。が。腰。の。辺。を。控。も。乃。ち。勢。ひ。小。衆。ト。て。緊。り。れ。彼。女。少。し。も。動。き。働。く。と。能。は。れ。大。地。に。響。き。さ。り。減。ひ。ら。れ。は。彼。女。人。の。後。生。急。不。來。て。助。け。ん。と。せ。し。如。に。武。松。大。小。吼。つ。て。進。き。倚。ら。ぬ。控。殺。ま。ん。と。罵。り。ら。れ。ぬ。人。の。後。生。は。怒。り。を。咬。て。偏。に。只。呆。れ。る。許。之。彼。女。

自ら罪を謝して云々の我誤つて豪傑を犯せり。然るに豪傑我を焼して
放ち去ると。後云ふんとせし。然る人の漢子外面より入て只顧みつて云
々の豪傑怒と息と。其女を焼く。自我自ら説話せり。とあり。武松これを
見小跳起。彼女をたりの脚小踏。其双の拳を捏て。彼漢子を以て。其
紗の面に中を載さ。身より布の短袖袵と。其一面の良薬として。微く
年の比に三十又六歳許りの彼漢子武松と見て。慇懃小子を来云々の
行くに豪傑の号姓。大名を承く。武松云我ハ是湯谷縣の知府武松と
云者之。彼漢子が云。系陽岡の上小て虎を殺し。白ひぬ。武松於此て。あ
武松云我乃ちき武松也。彼漢子これと。武松云我ハ是湯谷縣の知府武松と
知府の大名と。幕と。目既小久し。今日何の事ひ小依て。武松云我ハ是
武松云汝ハは女の夫あり。吾と云。女ハ實に系陽妻之。彼眼を以て。其

豪傑と識る。て喜りに威風を犯し。中ね。然るに系陽の祿の祿顧ひて。
忍妻が料と。故く之武松彼が。慇懃を。と見て。仕。女と放ち。起し。云
る。我熱く汝夫婦と。る。武松云。人小の。武松云。姓名と。漢子先
妻に對し。云。汝速に。武松云。罪を謝せ。武松云。武松云。武松云。
て云。我一時の怒り。小系ト。夫人と痛め。武松云。然る。武松云。武松云。
忽に。武松云。我肉眼。其の英雄と。識る。武松云。武松云。武松云。武松云。
文後悔。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。
て。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。
青と。系。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。
と争ひ。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。武松云。

小一日一人の老翁小遇とてこれと剥れんとせしに比老翁武藝の達者として
 と三十餘合戦ひつゝ小末と抄倒しぬ比老翁も又仕年の時より強盗と成て
 武藝と熟練しとて彼末が働活動るしとて遂に末を引て城下小回り已が
 武藝の秘術とてよく末に傳へ又比女と某に嫁せりめて親子の縁と結びぬ末
 京東城下の住居と好ざりし由名再び比女に接して酒と高賣する家業と名付
 り旅人貨多き者する時酒の内に蒙汗茶と入て飲し之遂に其命と害
 して貨と棄ひ死又是人肉と牛肉と名付て肉包と製末毎日これと村中
 に携へて賣ひせり末亦亦より天下の豪傑と交りて結びし由名豪傑ら我を
 呼て茶園子張と申すに我書い此の孫父が武藝と傳へ又柳力をあり人皆
 彼と呼て母夜叉孫二娘と申す彼が父の三年の死を泣しぬ其名と山夜
 叉孫元と馬して天下小名なき豪傑してひひき末今村中より回て肉包入

一此の武妻が再三の叫ぶと彼は何事やと尋ね見しに悲泣す小末
 見え自ら將躍に傍より之末を牢く急書に命して殺すめぬ人三つ
 の第一の雲遊の傍之雲遊の傍より多き方々に流落難難とて其之況や
 出家のころんが豈めてこれと殺すに悲びんや向ふも已に天地と驚し一ひるこ
 此豪傑と殺んとせし比人の系是地安府老神經界相公の提轄官姓ハ
 魯名ハ達とて只三拳と加人とお殺すれ又孫山小上て出家と遂に彼
 が身中小花と刺黥しるや傍て人皆彼と呼て花和尚魯智深と申す比
 傍一ツの殺杖と使ひて最も神妙之乃ち殺杖の重き六十斤許も
 わらん彼も向小比女と過り我店に入し由名急書又酒の内に蒙汗
 茶と入遂に毒に中ら後空房小入これと害せんしる如に昔に
 比我回て先彼殺杖とてるに魯智深の誓の由也と殺杖小めりしに

采意に毒と消茶とに中に灌入れて毒ひ救ひ起し一竟小来と義を
 結んで見才の盟と誓ひぬ今かの二竜山宝珠寺小在て面獸揚志と
 中ん云々と共に強盗の政候とて居るが毎夜書とあせて我と山陣
 小招くと久我尚未往と能ひして手招きせよと武松が云我と旅
 中に在る魯達の大名と云と久一彼の是美の英雄と強妻が云我と美
 に命し第二に殺すめさる人さう今世に往來す妓女娘子の如く
 け害ハ皆密と敬ひ舞と奏十分小態懃の心を尽し一僅の恨と求む
 者るれ豈能えれと殺んや若我彼害と殺す天下の豪傑小嘲り笑ふ
 又第三小殺すめさる若ハ死而に盡く流人の内ハ何豪傑多し
 是強て強の豪傑と殺す来一世の後悔之強に忍妻我が言と用すして
 今日又強と殺さんと欲せしと是大ひなる過なり若我片時遅く回

るは何と云て我ハ一片の心を盡さんや母夜叉孫二娘がいろ我もか
 と害すべしと思えざりしを第一強の包袱の書きとん第二小の強
 戯れやひ一由我不怒り起して己に毒酒とをめさる武松が云我ハ
 此是強人の心とて女に戯れと云とさ一強れや夫人再と服とめさる
 我包袱と看ぬひ一に依て我えれと疑ひ故去戯れと云て我心小断
 のる解と夫人小見せぬ我老子彼酒と毒の事と知て暗にれと持作りて
 毒小中し持振と殺し一れば夫人果し一我と害せんとせられ一由我
 小来とて夫人と強しあり彼渾し酒器小移しあせ見ぬ一強妻とれと
 何と云とお笑ひ己に酒宴と役け武松と款待なり武松が云張公かくの
 強妻と毒の上は彼夫人の下友とも助けぬんや張妻が云我が一不存
 万敵先我人と宰取とん人とも乃武松と引人と殺すを房の内小入

武松はれどるに後の上の汗多の人の皮と掛梁の上は又七對の人の
 腿と吊るるが血臭と鼻と熱して傍を彼友人の下友はや人を寧ろ
 の上にあられ武松判張ま小對一強公我為にそを是と助けぬ張ま公
 彼と救んとい何より容易一まの却改の犯一ぬい一罪の次第で残り
 我強一ぬ是と助けぬ後彼と助るとと商議来し素郎も存わぬ
 先下友ホと助けざる武松是と助け彼西門慶と阿嫂と殺し兄の仇
 と報せ一次弟知縣の查照心小任せざり根子正具され残り張ま
 夫ぬ大不感歎一なる張青が云我今一句の云とて却改小初めりさん
 志しは張青一ぬんや武松が云張公の休めぬんとわふ速に残り張
 妻が云素熟く却改の身の上と思ふ小却改り一孟州の死所に移りぬは
 艱苦と後ぬん一最大いぬんあはじけ取て彼友人の下友を殺しさん





於此こゝ皆みな我われ家うちに滞とどりて疲つかれども慰なぐさめぬ又また肯あへて強盜きやうとうの改かれ
 ともなうぬんとする。我われ自ら於此こゝ二に竜山りゆうざん宝珠ほうしゆ寺てらに薦すすめ送おくつてかの曾智そうち
 源げんと一ひと雨あまのわしめり。あゝ此こゝは許ゆるしむべきや。武松ぶしょうがいも。此こゝ後あとを
 強つよりとすも只ただこの事ことみそ。足下あしもとの厚意こういに従したがひ。我われ亦また只ただ上うへ小こ在あり
 て別べつに者ものに傲おごり。下した小こ在ありて弱よわきと憐あはれ。況いはんや。我われ亦また只ただ上うへ小こ在あり
 懇こんに我われを敬うやまひ。一点いっも廉れん畧りやくのとは。我われ亦また只ただ上うへ小こ在あり。あの人ひとが命いのちを害がいせし。天理てんり必かなず我われを
 鏡かがみし。あま。足下あしもと。我われと憐あはれ。宜よろし。我われ亦また只ただ上うへ小こ在あり。彼かれの人ひとの命いのちを助たすけ。又
 物ものは我われます。感かん心しんす。強つよま。於此こゝの室むろ。而しかも於此こゝ。義士ぎしの女むすめ。之これ
 我われ亦また只ただ上うへ小こ在あり。彼かれの助たすけ。二に人ひとの。下した友とも。覺おぼし。拖ひ落おす。一ひと碗わんの毒どく。之これ
 茶ちやと。口くち中ちゆうに瀆しつぎ。入いれ。彼かれの。下した友とも。恰さも。愛あい中ちゆうに。在あり。睡ねの。碑い。之これ
 ぐ。起おき。上うへ。別べつに。武松ぶしょう。對たいして。云いふ。は。此こゝの。酒さけ。の。味あじ。は。い。ろ。う。と。云いふ。

僅一碗と飲るに何由かやかくのうと前後もあつた碎るや。或松これや
笑て呵々として笑ひられ張青夫婦も何となく嗤と笑ひし。如に彼下友ら傳に
を急と曉ホー共ニ笑ひるを好笑られし時又張喜再び小二小三小
命トて参るに酒宴と役けし。乃ち後園小籠。大いに飲酌と傳りり。
張青夫婦益と執る。再三或松と勸め又友人の下友と強酒已に教巡甲
一如に日過薄暮小進られ。張喜夫婦夜飲と催す。遂に燈と東
て孟と新美酒又教巡小節し如に。或松又張喜夫婦小對し。徳の豪
傑ホが不為人と殺し火と放つことと流り。乃又山東の及時西宋公明が。
洪徳と稱美して云る。宋公明の元來双びる英雄也。義と守んと財と
淫ん。出己に今宋大官人の教小節ありと流りられ。張喜夫婦も宋公明が徳ある

とと稱美し。乃如に二人の下友は流徳と傳て大に驚き恐れ。再び身と揮
り。及と失ひられ。或松これと見て乃友人の下友に對して云る。汝友人及
中懇懃不仕して。我汝は如を送りし。とられ。我妻毛既汝ホと害するむ。し
想ど。我が如の豪傑の流徳する所。或と帯し勇と兼人と殺し火と放つ
言多し。汝ホ保てこれと。或と云る。我妻は誓て若とる人と殺さば。只
と做人と殺すもの。我とは恩と忘れず。背くの徒。不わ。汝ホ宜しく。心と
寛げ。只願酒と酌。明日孟州に参り。我殺す。汝友人と謝す。と。張喜も
又友人の下友小對して云る。汝必我妻が流徳と傳て。後々に疑心を生じ
恐る。と。云る。只宜しく。安んず。酒と飲よ。自ら盃と卷て勸められ。ば。
友人の下友は時始て心と安んじ。一連に三入孟酌乾り。已あつて夜も深
更し。遂に孟と收めて。そ夜ハ若張喜が教小歇。翌日或松列れ。若

亦之んとせしぬに張喜夫婦再々再々何とぞとてぬれぬ武松梓すこと
 能くして。一連に三日逗留し大小張喜夫婦が懇情と慕りし。武松心中も
 夫婦のまご厚意と感へて遂に張喜と義と結んで兄弟の物と誓ひ。その年萬の
 高低と痛しむるに張喜は武松に又兼の長きり。乃ち張喜と物して兄弟と
 定め恰も同胞の如く。武松は日張喜と梓して別れと告られぬ。張喜は酒宴
 と設け別離の盃と傳へ又十支の銀と武松を送り。饑の落儀ありし。又三
 支の銀と二人の卜友に与へ張喜夫婦已小武松と送て病果出互に依り
 恋く遂に双方に別れり

○武松威安平寨と結ぶ

扱も武松は友人の卜友と共に平日に孟州の城下小あり。並に府尹が衙門小
 懸るに府尹廳上に出て武松は友人の卜友を塔の下に呼寄。東平府より

の文書と傳は披覽し。早速文と修へて卜友小子へ壺と東平府面ら
 しく。一人の雜乞小令じて武松と高地の營中に送せられぬ。別營中に武
 松と守さる。武松別營門と着て。この願熱なり。敵の上へ三ツの大文字あり
 て。安平寨とあり。房間の内小ありし時雜乞が云。汝は宜くは知に在て。差撥の
 来るは休火とて已に取取に在て。初と告遂に領書と乞。其母は城下へ
 帰る。武松は独房間に閑坐し。乃ち先達て營中小在流人。凡十は又
 人武松が房間の内小在て云。乃ち豪傑汝は新來のこされ。定て營中のこと
 と知りぬ。汝は結の銀の如く。是と包て待ひ。少刻差撥来る
 べし。間暗小を銀と差撥小送り。武松は時を彼殺威棒と申て初て来る流
 人と赤の棒をり。是と赤とむ。是は結と送らる。時をば持て
 赤と志せし。我寄皆汝とけし。眾人をれ。特く來ては。と汝に告

之後小も免死に執悲ひと云とありて。拘容を執て悲ひ我事今汝小比の
 如きことと告るハ乃生執て哀ひの乃理之武松云列位の慈意憐小感附に
 傍に我身辺も少しへ恨茶坊しるに。彼若れと亦時幾何の恨の
 子へんや。彼方一我と嚇して求んとするや。我却て一錢もあふま。汝の流
 人を是とめて云らハ豪傑必也遠旅のこよ云ぬふと云れ我が事皆彼が下
 知と教るされいんぞら。彼小對して既と低ざらんや。只宜しく懇懇小話
 しぬふべしと。終ふ云らりる如に。又一人の罪人來て差捺友人を也。ありあひ
 めと告られば。汝の罪人在各口方へ敷去り。武松ハ於房間の内小居らる如に。彼
 差捺を入て問らる。新來の流人ハ何れ小在や。武松答て。新來の流人ハ
 列系之彼若捺が云汝何ぞかくのごとく。吾れ身小や汝ハ是系陽恩ふて虎と
 殺せ。豪傑小て。已に湯谷縣小於て。於既の職ともみせ。若されば。世間の事

とも曉す。されに。かく時勢に任せ。いん。汝已小は管中に来る。く。縦ひ大
 猫より汝に。おら。この。有は。汝宜しく。汝が。を。知れ。武松云。汝斯云ハ
 嚇して。宿給と。求んと。歎や。汝若我と。憐むの。云と。云ふ。我肯て。多く。初
 給と。送る。べし。小。汝已小比の。ごとく。我と。羞辱。ひる。上ハ。我を。錢も。汝に。与ふ。まじ。
 若。再之。尋ら。ふ。我。比。者。と。めて。汝。が。太陽。の上。に。あふ。べし。汝。が。能。勢。ひ。わ。る。べ。し。
 といん。も。せ。よ。彼。若。捺。は。云。と。めて。大。小。怒。り。忽ち。身。と。回。して。管。外。小。馳。出。たり。
 け。対。法。の。流。人。も。再。び。お。聚。つ。て。武。松。小。云。ら。ハ。豪。傑。何。も。志。若。捺。小。吾。れ。と。云。
 由。い。し。ど。若。捺。必。定。管。管。相。公。小。告。て。是。下。の。村。命。と。害。す。ハ。必。定。あり。お。
 刻。禍。の。別。り。と。わ。ん。豪。傑。何。と。めて。これ。と。脱。れ。なん。や。武。松。云。何。の。怕。る。と。わ。ん。
 彼。文。と。ひ。て。來。ら。ば。我。文。と。ひ。て。對。し。彼。武。と。ひ。て。來。ら。ば。武。と。ひ。て。對。せん。列。位。必。也。我。乃。小
 憂。へ。あ。ふ。と。る。れ。と。云。も。流。ら。る。に。三。八。人。の。兵。來。て。大。小。呼。り。ら。る。ハ。新。系。の。流。人。武。松。ハ

何れ小を也。武松答て武松之にあり。我一足も走らば。汝らぞかく
大考にゆや。彼を再び尋ひ遂に武松とて。點視の茶小のれ。
官官相公廳上に出。武松と罵て云。汝罪人。我朝の太祖。武皇帝の遺
一のゆる法度を知りや。凡流人初て官中。一の二百の殺威持と
このり我今汝とて。おの宣。一と。持と。清。よ。と。別。方。太。と。呼。り。云。許。多。の。下。友
を己に立。強。さ。り。ぬ。に。武。松。云。汝。危。人。必。ど。強。動。さ。る。と。ま。れ。我。の。一。持。小
ても。缺。さ。る。の。一。は。是。大。丈。夫。小。あ。づ。は。又。一。声。あ。て。も。喊。ぶ。と。わ。は。是。豪。傑。小
わ。ど。汝。小。迷。に。持。と。下。せ。あ。辺。に。列。坐。し。る。役。人。を。却。て。お。喚。て。云。ら。る。一。
這。痴。漢。何。そ。自。ら。死。と。云。や。怒。り。く。一。持。と。受。熬。ん。と。終。ま。ら。と。低。言。云。
武。松。又。云。汝。小。お。を。争。お。お。怒。り。く。我。却。て。汝。よ。る。は。力。と。昏。て。痛。く。歩。尤。太
の。危。人。これ。と。呼。て。却。て。又。大。小。笑。て。云。は。漢。子。遂。に。骨。と。碎。る。と。云。と。の。と。

亦ど云も早らぎに。一人の下友持と多くを。出るぬに。官官の傍に。一人の漢子
来る。身の長六尺許。して。年。の。比。二十。に。又。菜。と。見。へ。面。の。及。白。く。腮。の。顔。長。く。既
ふ。子。巾。と。捲。身。の。紗。腹。と。着。り。る。已。に。官。官。の。茶。小。と。て。乃。官。官。の。耳。小
附。て。暫。く。低。言。る。ぬ。に。官。官。忽。ち。武。松。小。向。て。云。ら。は。汝。乃。中。小。放。て。病。と。治
る。よ。武。松。云。我。乃。中。小。立。て。へ。酒。と。飲。肉。と。食。し。身。解。益。強。ま。り。て。若。て
病。と。治。ら。る。と。は。官。官。云。彼。乃。中。に。て。病。と。治。る。今。少。一。杖。束。と。遂。と。形。ハ
中。ら。め。終。れ。を。病。後。の。こ。る。れ。暫。く。且。殺。威。持。と。取。金。化。日。病。全。く。平。復。其。其
耐。小。方。に。殺。威。持。と。取。ふ。べ。と。故。云。下。友。ホ。と。瞧。し。下。友。ホ。云。と。悟。り。
乃。武。松。小。對。して。云。ら。は。汝。小。病。あり。と。云。は。這。ハ。是。官。官。相。公。汝。小。殺
威。持。と。免。ら。ん。との。好。ま。い。武。松。云。我。乃。中。小。立。て。へ。酒。と。飲。肉。と。食。し。身。解。益。強。ま。り。て。若。て
更。お。却。て。清。ら。ざ。ら。ば。一。持。と。取。り。ま。我。心。豈。う。く。片。時。も。安。ん。ぞ。と。あ。ん

や。又縦よこひ実まこと小病こびょうありとも。百ひゃくや貳じ百ひゃくの持もちせ交まじり何なんぞ忍おぼれん。管くわん管くわん呵かくと笑わらてけえあま必かならず定まこと熱病ねつびょう小犯こぼつされ未いまど汗あせ癡ちせざる由よし急いそ願ねがひらんれんとや。之これ彼かがことと夢ゆめ入いぞ疾はや房ふ間ま小こ引ひ取とけしと。下げ友ともお小こ命いのちじりれた。三さん口くち人ひと於おて武ぶ松しょうとと管くわん中ちゆうの房ふ間ま小こ送おくり入いる。是これより武ぶ松しょう劉りゅう勇ゆうの勅しやく子し後ご卷まき小こ退ひくる也なりと見みんん也なり

新編水滸画傳卷之貳拾又畢

